



## 豪雨災害 独居の認知症高齢者を隣近所が支えた

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（53）】災害弱者の高齢者守る態勢を

公開日：2018/07/24 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長）

7月7日（土）早朝、携帯電話の音で飛び起きました。

スタッフからです。「外を見ましたか。道が川のようになっています」と、興奮した声が電話口から聞こえてきました。あわてて窓を開けてみるとひどい雨です。



救援物資の搬入（里村氏提供）

私たちの町はその日から陸の孤島となったのです。

その後、豪雨の影響で道路が通行止めになって、勤務できないスタッフが続出しました。その上、近隣でも断水している地域があるとの知らせも入ったのです。

そこで、出勤できるスタッフに勤務変更を頼み、施設の入居者にはいつもと変わらない生活を、過ごしていただけるよう整えました。

問題なのは、地域で一人暮らしをしている高齢者です。

前日にはケアマネジャーが気になる利用者に電話し、大雨が降る恐れのあることを伝え注意を促しました。それでもスタッフは手分けをして、在宅の高齢者に安否確認の電話をし続けました。

もし、避難所に行けず自宅に取り残されている人がいれば、直ぐに対応する必要

がありますし、水や食料品などで困っている人がいれば、届けなければなりません。

しかし、一番心配していた独居の認知症高齢者は、隣近所の人たちが気遣って水や食事を差し入れてくれました。また、ヘルパーやケアマネジャーは給水所に行けない高齢者の自宅まで水を運びました。そんな共助の底力に感動しました。

昔、呉は海軍の町だったので、その影響で今も人口に比べ総合病院も多くインフラは整っています。だから、災害には強いと私は勝手に思い込んでいました。

まさか、土砂災害で市内に繋がる鉄道や主要な道路が遮断されるなんて夢にも思わなかったのです。

いつ断水してもいいように貯水しましたが、今までの経験からするとすぐに断水は解除するものと、安易に考えていました。

ところが、数日経っても断水は解除されず、物流は止まってますます物資が手に入りにくくなりました。

そんな中、断水で入浴できない高齢者が多くいるのに気付きました。

私たちの施設は断水していないので、困っている人たちのために施設を開放して、入浴支援をしたいとスタッフに相談すると、快く賛成してくれました。

早速、行政や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に連絡して、入浴できない高齢者やその家族を受け入れたところ、たいそう喜んでいただきました。

さらに、呉地区の福祉施設救援物資拠点やキリスト教会ボランティアセンターの事務局となり、私たちでできる支援をすることにしました。

また、海外や全国から被災地の負担ならないよう、寝袋と食料を持参して駆けつけてくれたボランティアは、キリスト教会に宿泊する予定でしたが、教会だけでは間に合わず、宿泊先として施設を開放しました。

炎天下、過酷な作業に愚痴もこぼさず、讃美歌を歌いながら土砂を取り除く海外のボランティアの姿に、被災された人たちだけではなく私たちが勇気をもらいました。

不幸中の幸いですが、私たちの周りの高齢者の人命は守られましたが、被害にあった人の7割超が60歳以上だと聞くと心が痛みます。

その原因の一つとして、特に独居の高齢者は災害情報を入手しにくいことが考えられます。加えて、避難しようとしても自力では難しい人やそのタイミングを判断できない人も多くいるのです。

そうだとしたら、早めの避難が重要です。行政と地域住民や私たち福祉施設が連携すれば、危険な場所に住んでいる独居の高齢者の情報は把握できます。

避難準備が出た時には、そのリスクの高い人たちに予め決めた担当の者が声掛けをして、避難するような仕組みを創ることで、犠牲者を最小限に止めることができるのではないのでしょうか。

その受け入れ先の一つとして福祉施設が協力できれば、災害で涙する被災者を少しでも減らせるのではないかと、一人で悶々としています。

国が推進している地域包括ケアシステムでは、住み慣れた地域に独居の認知症高齢者は住み続けるのです。だから、災害があったとしても安心して暮らせる地域創りは緊急課題です。

これ以上高齢者を災害弱者にさせないためにも。

[続報リクエスト](#)

[マイリストに追加](#)

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子氏のバックナンバー](#)
- > [北朝鮮、「終戦宣言」で韓国に圧力](#)
- > [米中貿易戦争 中国に不利](#)
- > [中国で財務部と人民銀が対立](#)
- > [戦前の日本は環境政策に積極的だった](#)